

災害に負けない 住民主体のまちづくり

新潟県柏崎市

おたじょう

北条地区コミュニティ振興協議会



北条コミュニティセンター(昭和51年設立)

地域の助け合い

平成13年度

人材バンク

「北条地区助け合いセンター」

設立と活動

過疎・少子・高齢化の伸展が著しい北条地区の超高齢社会は目の前である。

そんな社会に対応するため、地域で地域を支えあう助け合いのシステムが必要と考え、平成13年度、公民館で「人材バンク設立講座」を開設し、北条に適した人材バンクのあり方を住民は学んだ。

そして、平成14年4月1日、「北条地区助け合いセンター」を発足した。

平成19年4月1日より、NPO法人「北条人材バンク」として独立。

～ 民間で一地域での立ち上げは全国初!～



人材バンクはこんな活動をしています

【一例】

通院介助



高齢者の話相手



家事援助



中越大震災発生

平成16年10月23日(土)午後5時56分発生

震度6強 大きい余震がいつまでも続く



中越地震の被害



◆ 北条地区の被害

全壊：9棟／大規模半壊：22棟／半壊：77棟／一部損壊：271棟

◆ 問われた地域の防災力

- ① 地区内には防災組織は整備されておらず、被害状況の把握や安否確認に手間取った。
- ② 被災者が一番望んだ救援物資はブルーシート。情報不十分にて被災者にいきわたらなかつたため被害を一層大きくした。
- ③ 停電により固定電話は使用不可、携帯電話も北条地区内の電波状況は悪い
ため、連絡手段が全く取れなくなってしまった。
- ④ コミュニティセンター前の道路が狭隘なため、大型車や緊急車両の出入りに支障をきたした。
- ⑤ 地区内唯一のスーパーマーケットが撤退。小売店はもちろんなくなり、地区内には生鮮食品を販売する店がなくなってしまった。高齢者は日々の食事困るようになる。

↓ 次年度より、課題解決に向けての取り組み

震災後の取り組み

北条地区防災連絡体制組織図（20年度）

- ◆ 柏崎市に災害対策本部が設置され、北条地区に避難所が指定された時に「北条地区対策本部」を北条コミュニティセンターに設置する。
- ◆ 北条地区対策本部は各町内会と連携を図りながら、被害状況や道路状況等の把握や要望事項（例下記）をとりまとめ、市の災害対策本部との連絡窓口になる。
 - ・ 各町内の安否確認情報及び被害状況の把握
 - ・ 各種情報の収集・提供
 - ・ 資材の調達・救援物資の支給
 - ・ 食料及び生活物資の調達・配給
 - ・ ボランティア要請及び依頼業務

市災害対策本部

北条地区災害対策本部

- 本部長 1 … コミュニティ会長
江尻東磨
- 副本部長 2 … コミュニティ副会長
村山幸・若月忠二
- 事務局 3 … センター長
泉田義雄
主事
戸田洋子・丸山由貴



北条地区対策本部への連絡責任者は町内会長とする。

会長（町内会長） 氏名

— 町内会名 —
町内会

副会長（役 職 名） 氏名

災害発生時の各町内会で設置する防災部門

役割	情報班	消火班	救出救護班	給食給水班	避難誘導班
	<ul style="list-style-type: none"> 迅速かつ正確に被害状況を把握し、町内会長に連絡する。 情報の収集と伝達 住民に正しい情報伝える。デマの防止等に努める 	<ul style="list-style-type: none"> 火災が発生した場合は地区消防団と連携を図りながら、初期消火活動に努める。また、近隣住民への火の始末等を呼びかける。 	<ul style="list-style-type: none"> 救出救護を行う。 負傷者が発生した場合は近隣住民の協力を得て、応急手当や医療機関に搬送する。 	<ul style="list-style-type: none"> 炊き出し及び飲料水の確保をする。 救援物資の受け入れと分配。 必要物資の調達、分配 	<ul style="list-style-type: none"> 避難誘導を行う 避難所での秩序維持を図る。
班 長					
副班長					
班 員					
班 員					
班 員					
班 員					
班 員					
班 員					

- ◆ 参考 北条地区避難所開設運営職員名（市職員・健保管者）
 - 北条南小学校 田中保彦・木村克巳
 - 北小学校 宮山 均・伊部 猛
 - 中学校 今井正典・江部 哲
 - 北条コミセン 小黒利明・片桐隆宏

左記施設は災害時に優先的に開設する施設。
健保管者は夜間、休日に震度5以上の地震が発生した場合、直ちに避難所を開設し、そのまま避難所を設営する。

・災害時の連絡体制を確立
地区内(21町内会)に自主防災組織を整備

・組織図 ←

北条地区災害時要援護者台帳 (防災福祉マップ)

持ち出し厳禁!

北条地区災害対策本部

北条地区 災害時要援護者登録申請書兼台帳

申請年月日 平成 年 月 日

申請者	氏名		電話	
	住所			

登録者

ふりがな		性別	電話番号	生年月日
氏名		男・女		明・大・昭 年 月 日生
住所	〒949-			年齢 歳
要援護理由	① 一人暮らし高齢者 ② 高齢者世帯 ③ 在宅の要介護高齢者 ④ 身体障がい者 ⑤ 知的障がい者 ⑥ その他援護を必要としている方 ()			

緊急時家族等の連絡先

ふりがな		性別	電話番号	登録者との続柄
氏名		男・女		
住所	〒			
ふりがな		性別	電話番号	登録者との続柄
氏名		男・女		
住所	〒			

向三軒両隣の支援

氏名	住所	登録者との関係	電話番号

* この台帳に関する情報は、災害時に地域の支援により、生命等の安全を図るものであり、個人情報の保護に留意し、厳重管理するとともに防災の目的以外使用しません。

北条地区災害対策本部

廃止 平成 年 月 日 理由 ()

総合防災訓練

- 整備した自主防災組織及び要援護者台帳等の検証。
地域の防災訓練は4年に1回開催することを決定

「向う三軒両隣」の支援による要援護者の避難誘導



ふるさと市場

その4

震災後の取り組み

だんだん

「暖暖」開設

- 過疎化、マイカーの普及、大型店の進出等で食料品や日用雑貨を扱う店が年々姿を消していく中、中越大震災は一層の拍車をかけ地区内唯一のスーパーマーケットをも撤退に追いやった。買い物にいけない高齢者などは日々の食事に困り、コミュニティに救済を求めてきた。
- 平成17年度、コミュニティの「住民起業室」ではその解決策を探り、平成18年5月27日、「暖暖」をオープンした。

— 北条ふるさと市場 —

だん

だん

暖 暖

平成19年7月16日 (月・海の日) 午前10時13分

悪夢再び！

中越沖地震発生

中越地震から2年9ヶ月！ 震度6強

被災者の生活

避難所生活の状況（柏崎市）



	柏崎市の被害		北条の被害	
死亡		14人		0人
けが人	1,	664人		3人
全壊	1,	121棟		8棟
大規模半壊		676棟		22棟
半壊	3,	904棟		125棟
一部損壊	22,	705棟	1,	088棟

中越地震の 教訓が生かされた中越沖地震

- 1 地震発生から1時間以内でコミュニティに地区災害対策本部を開設。
- 2 災害本部開設後、約2時間で全町内会(自主防災会)から被害報告を受ける。
- 3 要援護者台帳に登録された要援護者の安否確認及び、避難所への誘導がスムーズにできた。
- 4 救援物資の把握と配給は迅速に対応できた(Bシートや土嚢袋等)。
- 5 震災翌日には全自主防災会長を招集し、「防災会議」を開催し、の情報を共有し、今後の対策を検討する。地区と行政の窓口となる。
- 6 震災直後からの炊き出しは「暖暖」が、「人材バンク」は高齢者の部屋の片付けや通院介助、悩み相談などの救援活動を行った。

その1

防災携帯無線の整備

2回の未曾有の地震を被災したことで、災害時の連絡手段の確保は必須課題となり、コミセンをキー局として各自主防災会と無線をネットワーク化した。財源は各町内会の復興基金を出し合う。



絆 震災復興スノーフェスタ in 北条
—— 携帯無線・コミュニティと全町内会をネットワーク化 ——
▶ 災害時における北条の連絡手段はこれだ! ◀

北条市災害対策本部
災害対策本部
災害対策本部

北条災害対策本部

青対策本

青対策本

その2

「暖暖」リニューアルへ

「暖暖」改築決定（復興基金導入）

- 震災復興基金を基にした復興デザイン策定事業並びにデザイン先導事業（1,000万円）を活用し、コミュニティ計画（復興基本計画）の見直し点検を行うと共に、お総菜のお店兼工房であった「暖暖」を全面リニューアルし、地域復興のシンボルとして、または地域づくりの活動拠点として整備することを決定。

お代うどん

A menu board with an orange background and black text. The text includes "お代うどん" and "うどん" in large characters, and a list of items in smaller text. A small illustration of a person is visible on the right side of the board.

A glass entrance door with a dark frame. A large white sign with black text is on the left side of the door. A smaller white sign with a red border is on the right side. A green sign with white text is on the right side of the door. A stack of green plastic baskets is visible inside the door.



更なる地域防災力の高度化を目指して！

独立行政法人 防災科学技術研究所と共同事業

平成21年度

- ・学校・地域連携の防災訓練
- ・市民レポーター養成講座
- ・地域間交流 つくば市北条振興会・藤沢市六会地区

平成22年度

- ・防災マップ作成(町内会長がeコミマップに入力)
- ・災害救援ボランティア受け入れ訓練
- ・市民レポーター養成講座
- ・地域間交流 藤沢市六会地区 ちびっ子博士疎開体験講座

第2回

児童・生徒の地域・保護者への渡し訓練

総合防災訓練

平成22年10月17日(日)

- 平日の昼間、授業中に大規模災害が発生したと想定し、子どもたちを安全に帰宅させる（保護者に引き渡す）ために学校・家庭・地域が連携した訓練を実施。

防災グリーンツーリズムの推進

平成23年・24年度 地域間交流編

- 東日本大震災を受け、日頃から顔の見える持続的な交流をこそ、いざという時に頼れる「絆」を築くことになることを痛感したコミュニティでは、地域をあげての本格的交流を推進していくことを決定。
- 23年度6月：地区民親睦旅行を兼ね、北条地区民40名が藤沢市六会地区を訪問し、親交を深めた。
- 同年11月：交流施設「さらい」完成祝いを兼ね、六会地区民17名を最初のゲストとしてお迎え、交流。
- 24年2月：災害時だけでなく、日常的に、世代を超えての交流を誓い合う「地域間交流のための覚書」を交わした。

平成23年・24年度

防災グリーンツーリズムの推進

交流施設「さらい」整備編

- 東日本大震災を契機に、役員を中心としたつながりから住民同士の顔が見える交流へと機運が高まった。
交流施設は万一の際の避難施設と併せて北条地区の自然や農村文化を知ってもらう施設として、地区内の空き家を借用してリフォームした。
- 23年度：木造一部2階建ての1階部分と外壁の一部を改築
- 24年度：外構部分（物置解体・庭づくり・手作りピザ窯）

最後に

**会場にお越しの皆さまの
ご健勝とご多幸を
お祈り申し上げます。**

お疲れ様でした。